

白鷹町少年少女合唱団 第5回定期演奏会 心に響く優しいハーモニー

白鷹町少年少女合唱団が主催する定期演奏会が3月5日、あゆむで開催されました。

今年度は、保育園年長児から中学3年生までの29人で活動してきた合唱団。この日は、白鷹女声コーラスさくらを特別出演に迎え、演奏と合唱で1年間の集大成を披露しました。子どもたちの透き通るような歌声や楽器の音色にうっとり聞き入る来場者。最後に、団員の打田ゆららさん（鮎貝小6年）が「また会える日を楽しみにしています」とあいさつし、「また会う日まで」の合唱で締めくくりました。



紅花生産者紅花商品学習会 日本の紅（あか）の商品化を学ぶ

3月25日、産業センターでは町の紅花生産者約20人が集まり、「紅花商品学習会」が行われました。

これは紅花生産者の皆さんが、自身で生産した紅花や紅餅にどのような形で付加価値がつき、商品化されて購入者へ届いているのかを学習し、「紅花生産日本一」の白鷹産最上紅花の生産者として、意識の高揚を図ることを目的としたもの。この日は、白鷹産の紅餅で本紅を製造する「㈱伊勢半本店本紅事業部」から、山崎美嘉さんと瀬崎麻未子さんを講師に迎え、紅の歴史から用途、製法、紅を通じた活動などを学びました。また、猪口に刷（は）られた紅が玉虫色に輝くのは、最上紅花だけであることを学んだ生産者の皆さんは、実際に唇に紅をさし、「若くなった気分」と笑みをこぼしました。



歴史の土台を築いた1年、ここからまた歩み出す 白鷹中学校第1回卒業証書授与式

3月16日、在校生や先生、保護者、来賓などが見守る中、白鷹中学校で第1回卒業証書授与式が行われました。

4月の開校から、先頭に立って白鷹中学校の歴史の礎（いしずえ）を築き上げてきた卒業生151人。小林宏一郎校長から一人ひとりに、「深山和紙」の卒業証書が手渡されました。卒業生代表の金田柊太郎さんと齋藤遙香さんは、3年間ともに歩んできた仲間たちに「これからどんな荒波に揉まれようとも、自分の道を力強く歩んでいこう」と旅立ちの言葉を贈り、卒業生は「しあわせがあつまるように」の合唱で、中学校生活の最後を飾りました。

